

第 17 回月例会（第 4 回超域フィールド研究会との合同開催）

平成 30 年 2 月 8 日（木）に国立民族学博物館において第 17 回月例会を開催いたしました。今回は館内の第 4 回超域フィールド研究会との合同開催として、拠点構成員の太田准教授が受入教員となっている本館外来研究員のランス・パーシー氏（バーミンガム大学博士課程）が”Brooding Necropolis, beside the Spirit Hills:Space, Place & Landscape in the Epitaphs of Liao Elites”（「鬱々たる奥津城、神山の傍らに——遼代エリートの墓誌からみた空間、場所と景観」）と題して発表いたしました（使用言語：英語）。

遼における領土は現存する公的な資料によって描かれてきましたが、本発表では墳墓の碑文から当時のエリートらの視点による地理情報の復元が試みられました。こうした公的な資料による地理とは異なる「地理」を含めた「複数の地理」が、北東アジアの歴史を復元する上で重要となることを指摘しました。